



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

道徳(石橋教諭・研究授業)を 5つのポイントで検証する

長期研修生として、日々研究に打ち込んでいる石橋教諭が、本日5年生の道徳の授業をしました。その授業について、校長便り(職員編)4号で示した5つのポイントで次のとおり検証してみました。

ポイント1

単元の「居場所」、本時の「居場所」を的確にとらえて授業を構想しているか？

授業における「居場所」とは、結局何か？それは、つまりポイント3に示した「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に満たされている状態をいうのではないかという結論に今のところは自分なりに落ち着いています。

それが本当に満たされた状態だったのかどうかを見取る手がかりが、この1時間での児童生徒のねらいの達成状況なのではないでしょうか。

とすれば、今日の道徳の授業では、

「個別最適な学び①」(資料前半を読んだ自己内対話) → 「協働的な学び①」(お互いの自己内対話の交流) → 「個別最適な学び②」(資料後半を読んだ自己内対話) → 「協働的な学び②」(お互いの自己内対話の交流) → 「個別最適な学び③」(自己決定・発展的振り返り)

といった形での「居場所」だったのですが、

このような「居場所」が果たして的確であったかどうかを、心情シートの自己の変容や「発展的振り返り」の内容でとりあえずは見取ることなろうかと思えます。

ポイント2

授業の導入で、児童生徒の「なぜ?なぜ?」を引き出しているか？

授業の導入ではなかったが、「協働的な学び②」で、友だちの心情シート(タブレット)について、質問をすることを条件に対話の時間をとったことが、呉市が進める「子どもの問いを生かした『考える授業づくり』」につながったように思います。

ポイント3

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を追求しているか？

(ポイント1で述べたとおり)

ポイント4

手段としての「対話」や道具としての「ICT」によって思考が深まったか？

(ポイント2で述べたとおり)

ポイント5

「発展的振り返り」の記述内容から、1~4の達成度を見取る

価値項目「親切・思いやり」の授業としてはよい授業だったように思いますx。「発展的振り返り」としては、すべてに配慮した生き方にまで考えが及ぶようだとますます感心するところです。

